# シドニー五輪女子マラソン金メダリストが 靴でつなぐ 三豊とアフリカ

夢　笑顔

回収した靴を高橋さんに手渡す児童。
多くの靴がアフリカへと届けられています。

## 贈った靴 3千足超

「これからも家にある靴を贈って、ひとつでも多く笑顔を増やせたら—」こう語るのは吉津小学校6年の前田しずくさん。

市内の小中高校がエコの輪を広げようと平成22年12月に「みとよ・ヤング・エコ・サミット」を発足。翌年度からは、アフリカの子どもたちに使わなくなった靴を贈る活動「スマイル アフリカ プロジェクト」に賛同し、一丸となって靴の回収に取り組んでいます。平成25年11月末までに回収し、送り届けた靴は3，152足。この活動を通して、子どもたちはモノを大切にする心を育んでいます。

これまでの活動が高く評価され、7月7日・8日、同プロジェクトのメンバーとして活動を呼び掛けている、シドニー五輪女子マラソン金メダリストの高橋尚子さんが、そのお礼と活動の報告に市内の小学校と高校を訪れました。

高橋さんは、各校で集められた靴を受け取った後、アフリカの現状について、パネルを使いながら説明。児童・生徒は真剣に耳を傾け、環境と途上国の問題への理解を深めました。

靴をアフリカへ—。靴を通して、世界とのつながりが、三豊の子どもたちから生まれています。

## 命だけでなく 夢と勇気を

プロジェクトフロントランナー
高橋尚子さん

人の命を守る目的で贈った靴。その靴を履いて喜ぶ子どもたちからモノを大切に使うことを教えてもらいました。

市全体で「スマイル アフリカ プロジェクト」に取り組んでくれていることに感謝しています。子どもたちが世界に目を向けて活動に参加してくれて、とてもうれしいです。

靴は命を救うだけでなく、夢と勇気を与えます。

一人でも多くの皆さんに、一足の靴の重みを理解してもらえればと思います。

アフリカ・ケニアの現状を伝える高橋さん。高橋さんの言葉に、子どもたちは真剣に耳を傾けていました。

同プロジェクトの活動を紹介する児童。運動会に参加している地域の皆さんにチラシで呼びかけたり、学校の入り口にプロジェクトの趣旨を説明した展示コーナーを設けたりと、子どもたちが積極的に取り組んでいます。

ランニング教室が開催され、世界の頂点に立った高橋さんから、走り方のコツを教わりました。Qちゃんスマイル全開で、緊張していた子どもたちも明るく楽しく走りました。

## SMILE AFRICA

「子どもたちに笑顔のシューズを贈ろう」

## スマイル アフリカ プロジェクト

**Q. どんな活動ですか？**

**A.** サイズが合わなくなった靴を、はだしやはだしに近い状態での生活を余儀なくされている途上国の子どもたちに寄贈するプロジェクトです。

**Q. 何の役に立つの？**

**A.** はだしで生活するため、足に傷があればそこから感染症にかかり命を落とす子どももいます。そのような危険から守るため靴を届けています。

※市内小中高校の児童・生徒が回収する靴が対象となります。個人でプロジェクトに参加する場合は、会員の登録が必要になりますのでご注意ください

## 不自由ない生活に 感謝する気持ちを

香川西高校（サミット議長校）
須藤克馬さん、安藤汐里さん

高橋さんからケニアの現状を聞き、私たちの生活がどんなに豊かでいろいろなものに満ち溢れているかを改めて痛感するとともに、不自由なく生活できることにもっと感謝しなくてはならないと思いました。

ケニアでの経験を説明してくれた高橋さんに感謝して、私たちの思いを靴に乗せて届けたいです。